

「生物多様性ながの県戦略」が策定されました

「生物多様性ながの県戦略」策定に向けた環境保全研究所の取り組み

地球上の生物多様性は、長い年月のうちに場所ごとに異なる自然環境を生みだし、人間生活にも食料・資源・環境の調節・文化の基盤などさまざまなめぐみをもたらしてきました。これは月の上にはない地球だけのめぐみです。

近年の人間活動によって、この生物多様性は世界的に危機的な状況にあり、国内外で対策がおこなわれています。その最大の国際的取り組みが、1992年の地球サミットで採択された生物多様性条約です。2010年にはその第10回締約国会議（COP10）が名古屋で開かれました。COP10では遺伝子資源の利用とその利益配分の国際ルールを定めた名古屋議定書や生態系保全の共通目標を定めた愛知目標などが採択されました。

愛知目標では、2050年までに「自然と共生する」世界を実現するとし、2020年までの20の個別目標をかかげています。これは地域の環境とも深い関わりがあります。生態系は地域によって異なり、それらを守ることが生物多様性の保全につながるからです。それは地域の文化や暮らしを守ることもつながります。このため長野県では、「生物多様性ながの県戦略」を策定しました。策定は平成22年度にはじまり、この2月に完了しました。

当研究所では、この戦略の策定を科学的な立場から支援してきました。戦略策定のための基礎資料と論点整理として「長野県生物多様性概況報告書」を作成し、戦略策定委員会、県民のみなさんの懇談会や県庁部局間での調整会議などで情報提供してきました。報告書では、信州が日本の生物多様性のホットスポットとして重要な地域を

含むことなどを紹介し、開発や森林・草地・農耕地の利用衰退、シカの増加、外来生物、地球温暖化の影響など、さまざまな原因によって生物多様性がそこなわれていることを指摘しました。また今後の対応のための選択肢として、国内外で実行・提案されている事例やアイデアを例示しました。（当研究所のホームページに掲載中）



長野県生物多様性概況報告書

これを受けて策定された「県戦略」には、長野県の特徴やそこに生じている危機、今後の対策の方向性など、基本的な部分で当研究所の報告書の論点が採用されました。さらに県民意見や県庁各部局での検討をふまえ、愛知目標にあわせて、2020年までの県の具体的な施策の目標や県民の行動メニューなどが示されました。

○生物多様性ながの県戦略の策定経過と内容

長野県では、県の自然的社会的特性を活かした生物多様性に関する基本的かつ総合的な計画として、『生物多様性ながの県戦略』を策定しました。

策定経過

専門的な見地から検討するため、学識経験者、農業、企業活動等、各分野の有識者による策定委員会を設置し5回の検討を行いました。併せて広く県民の皆様からご意見を頂く2回のパブリックコメントを実施しました。また、本県の特徴として、生物多様性に係わる多くの民間活動団体の地域での活動が盛んなことがありますが、



懇談会で議論する参加者

その意見の吸収を図るべく地域懇談会の開催を募集しました。

懇談会は県が開催するのではなく、活動団体の方の開催を募集するという新たな形を試み、H22年9月～H23年3月までの間に計32回、70団体、のべ853名の参加を得て多くの知見を頂くことができました。更に、各団体の課題の共有や連携強化を図る場として「信州生物多様性戦略会議」を2回開催し、策定委員会、懇談会参加団体の皆様にお集まりいただき意見交換を実施しました。また、県の各部局との施策の調整を図るべく県庁内30所課等からなる庁内調整会議を設置し4回の検討を重ねたところです。



理念・目標

理念として「生命（いのち）のにぎわいと恵みを未来へ」、中長期目標として、「生命（いのち）のにぎわう『人と自然が共生する信州』の実現」を掲げ、目標の達成の

結果、社会や私たちの暮らしがどのような状態になっているのかを例示しました。また、短期目標として生物多様性の損失を止めるため2020（H32）年までに効果的で緊急な行動を実施することとし、「行動計画」を、「知る」、「守る」、「活かす」、「広める」、「つなぐ」の5つの動詞をもとに整理し示しました。

プロジェクト

直面する課題に対応するための重点施策として

- 生き物アンテナプロジェクト
- 日本の屋根（高山帯）プロジェクト
- 里山活性化プロジェクト
- 地球温暖化対策プロジェクト
- 地域連携・協働促進プロジェクト

の5つのプロジェクトを立ち上げました。特に地域連携・協働促進プロジェクトでは、活動団体の連携・協働を強化すべく、「信州生物多様性ネットワーク」（仮称）の設立を目指します。

戦略の推進

戦略の推進にあたって、各主体の役割を示すとともに、広く県民の皆様が活動に参加できるように、日常生活の中でどのようなことを心掛ければよいかを「県民行動リスト」にしました。今、生物多様性に起きている問題をしっかりと捉え、自然と共生する持続可能な社会を実現させるべく、県民総参加による行動を起こしましょう。

（長野県環境部自然保護課 窪田達央）

掲載 URL

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/biodiv/index.html>

今後に向けて

「生物多様性ながの県戦略」は、このように多くの方々の参加と協力を得てつくられました。これは信州の生物多様性とそのめぐみを未来に残すための計画です。これが県の施策のなかに位置づけられたことには大きな意義があります。

しかしこれはスタートにすぎません。計画を実行し、目標を達成しなくてはなりません。また進捗を評価し、目標や行動計画を随時見直すことも必要です。

その最大の鍵となるのが、少しでも多くの方が信州と地球の生物多様性の価値と、そのめぐみを未来に伝えるために必要な行動を理解されることです。それを地域と地球の社会全体で取り組むテーマにすることで。これは愛知目標の20の目標のうち最初の目標でもあります。長野県では、市民と行政などのさまざまな

連携が重要であることが、懇談会や戦略会議などでくりかえし指摘されました。当研究所もその連携の輪に加わり、みなさんとともに「生命にぎわう『人と自然が共生する信州』の実現」をめざします。（須賀 丈）

